



# 区報

【住み続けたいくなる寺町】

## てらまち

令和5年(2023)2月10日

第1号

発行責任者区長 渡邊謙治

寺町会館 TEL 552-0064

teramachi.4.10@ag.wakwak.com



## more and more もっともっと

寺町区長 渡邊 謙治

はじめに、この題名には今年には寺町区がもっと元気で活気ある町に、もっと防災に強い町に、もっと安全・安心して住み続けたい町になるように願いを込めています。

皆さんはご家族ともどもお健やかに新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

年は改まりましたが、国内外ともに多難な状況が続いています。新型コロナウイルスは一向に終息する気配は見せませんし、昨年2月から始まったロシアによるウクライナ侵攻もなかなか停戦の糸口を見いだせないでいます。

そのことが、直接、間接に私たちの日常生活にも様々な影響を与えています。身近のところでは原油価格、穀物価格、諸物価の高騰ですが、不安定な社会状況は子供たちにも大きな影響を与え、児童・生徒の間でいじめや不登校などが増え、また、経済的理由で中途退学する学生が増加していると報じられています。

この状況で区長として心がけていることが大きく二つあります。

一つは、寺町区は大きな区です。「みんなの寺町」を目指し、区民の気持ちがバラバラにならないように区報「てらまち」、かわらばん「てらまりん」を全戸配布、寺町サイトの開設、スマホ・パソコン等でタイムリーに知らせることで。

二つは、元気で活気ある町、防災に強い町、仲間と共にコミュニティづくりです。

伝統と文化を誇る「けんか祭り」は力強く団結力を高め活気ある町づくりに一翼を担ってまいりました。しかしながら、大勢の方々が参加した「けんか祭り」、琴平神社の宵宮祭、公民支館の「ふれあい運動会」など、当たり前だった日常が失われ3年がたちます。

寺町区には様々な制限の中、活動している諸団体があります。その団体や愛好会が普段の活動をとおして、共感・感動する仲間づくりをしています。今のこの時期を好機ととらえ、現在の活動、今後の活動に必要なモノが準備できるように、地域づくり「てらまりん」と協同して予算を削ることなく支援してまいりました。

終わりに、「ウィズコロナ」が模索されている今、縁あって出会った寺町区民です。

わが寺町の区民がもっと助け合い、もっと支え合い、もっと連帯意識を深め、誰一人取り残すことなく、明日を担う子供たちがもっと誇りをもって住み続けたい町をめざします。

今後事業や行事は感染対策の徹底に努め、一歩ずつ前に、今だからできる、今しかできない発想を変え、知恵と工夫で皆さんが安心して参加できる活動を実施していきます。

寺町区民にとりまして、今年はいい年でありますことをご祈念申し上げます、挨拶に代えさせていただきます。